

新年度がスタートしました

一昨日、令和3年度の教育活動が、無事スタートしました。今年度は、コロナウイルス感染防止の観点から、始業式だけでなく、入学式も校庭で行いました。昨日の雨は上がり、思いのほか肌寒かったのですが、春の日差しも差し込み、何とか滞りなく、すべて実施することができました。

この「立会の風(校長通信)」は、校長の立場から見た学校(子どもたち)の様子や取り組み、学校の運営の方向性などを、毎月発行の「学校だより」とは別に、できる限りタイムリーに(ただし不定期で)みなさんにお届けしようというものです。この通信を通して、少しでも、学校を身近に感じていただけたら幸いです。お読みいただいた感想やご意見などがありましたら、どうぞ校長までお寄せください。お待ちしております。

この日の朝は、正門で子どもたちを出迎えていました。私の顔を見て怪訝そうな表情の子、「新しい校長先生だ」とつぶやく子などと、その反応は様々でしたが、その多くは礼儀正しく元気に「おはようございます」とあいさつをしてくれていました。中には、数メートル手前で立ち止まり、「おはようございます」の後にきちんとお辞儀をする児童もたくさん見られ、私も、あいさつをされていて気持ちのよさをとても強く感じました。

前日の5日には、新6年生に、新年度準備のお手伝いをお願いし、いろいろと作業をやってもらったのですが、てきぱきと作業する姿が見ていてとても気持ちよく、「これからの1年間の様々な取り組みの中において、最高学年として活躍するみなさんの姿を見ることが、とても楽しみにになりました。」と声を掛けました。

心機一転という言葉があります。状況が変わることをきっかけに、心も体も良い方向に転換するときに使いますが、春はまさにそのタイミングです。入学・進級に伴いクラスが変わり、担任や学年の教員チームも変わります。仲の良かった友達とクラスが分かれてしまう場合もあるかもしれませんが、新たな出会いがあります。この入学や進級を一つのきっかけとして、力強く一歩前に踏み出すことができる児童もたくさんいるのではないかと期待しております。

「校長が変わると学校の雰囲気が変わる」こんな言葉をいろいろなところで聞きます。校長は、児童に直接指導をする場面はあまりありませんが、学校を運営する立場として、常に意識しなければいけない言葉だと思っています。前任の田邊泰典校長のおおらかさや懐の深さにはとてもかないませんが、滝淵なりの味わいを発揮して、立会小学校を、児童にとって過ごしやすい、今よりもさらに、毎日通いたくなる学校にしていきたいと思えます。どうぞよろしく願いいたします。

